

まんのう町教育委員会だより

爽そうふう風

子どもの健やかな成長を願って

令和2年〔2020〕

10月1日発行

Vol.21

Contents

- P.2-5 特集
続・アフターコロナの学校
- P.6-7 園・学校ウォッチング
仲南小学校・高篠こども園
- P.8 こども園児は 虫が大好き
P.9 シリーズ「声」
- P.10 ホットニュース
P.11 関係機関から



小川の中を 走る 走る!!

高篠こども園にて
(7ページに関連記事)



授業時数確保のために

1 夏休みを短縮しました

夏休みは、例年7月21日～8月31日までの約40日間。

しかしながら、今年は3か月の臨時休業で失った授業時間を取り戻すため、夏休みを8月1日～8月19日の19日間としました。

したがって、1学期は7月31日まで、2学期は8月20日からとなります。延長した授業日には給食を実施し、通常通りの日課で、午後も授業ができるようにしました。

2 1週間当たりの授業時数を増やしました

小学校は各校それぞれ時数の回復ができるまで、週2日、各学年の授業時数を1時間ずつ増やしました。中学校は9月1日まで、週4日、7時間授業を実施しました。

本来、授業時間は小学校45分、中学校50分ですが、時数を増やした日は授業時間を5分短縮して小学校40分、中学校45分にし、また、朝の活動時間を縮小するなど授業以外の活動時間を減らして、子どもたちへの負担を少なくする工夫をしました。

3 行事などの見直しを行いました

例年行っている行事について、授業時数の確保とコロナ感染予防の両面から見直しを行いました。基本的に「3密」になる行事は中止、もしくは形態を変えて行っています。

運動会のほか、小学校では、プール開き、校内水泳大会はどの学校も中止しました。また、毎年満濃南小で開催されていた小学生郡市水泳記録会も中止となりました。

中学校では、恒例の郡市総体が中止となりました。しかし、その代替として「仲多度郡普通寺市中学校交流大会」が開催され、7/24～8/2にそれぞれの会場で実施されました。満濃中学校の結果については、10ページに掲載しています。

コロナウイルス感染予防のための臨時休業はおよそ3か月にも及びました。そのため、「学年の締めくくり」と「新しい学年のスタート」という、子どもたちにとってたいへん重要な節目の時間が奪われてしまったのです。

6月1日にやっと本格的な再開を果たした小中学校。

6月と言えは、新学期も半ばを過ぎ、担任の先生や子どもたちとの人間関係も安定してきて、学級としてのまとまりが見られるようになってくる頃です。学習のリズムが確立し、意欲的に学ぶ合う子どもたちの生き生きとした姿が見られます。

ところが、今年ばかりは、そういった積み上げが何もできないまま6月を迎え、白紙と変わらない状態からの再スタートとなりました。

学校再開後、各学校が生活様式に様々な制限を設けて感染予防に取り組んでいることは、前回の「爽風第20号」でお伝えした通りですが、一方で、様々な制限の中にありながらも、コロナ禍前と変わらない豊かな学校生活を取り戻すべく努力を続けています。

今回は、様々な工夫により教育活動を充実させようと頑張る学校の取り組みをお伝えします。



続

アフターコロナの学校



感染防止のため机や子ども同士の
間隔に制限を設けながらも、一斉画
一の伝達型授業にならないよう努力
しています
互いに聴き合い考え合うことで、
子どもたちの学びは深まるのです

「学び合い」を止めない!



うまく暗唱できるかな？
きちんと距離を保って
順番を待っているね



先生とのつながり

全校生では、できなくても・・・



出前授業とは、企業や団体などの
社会人講師が小中学校に出向き、
実社会での経験や専門知識を生かして
特別に行う授業のことです

出前授業

制限はあっても

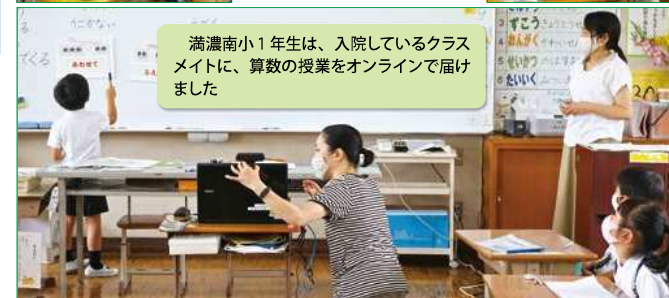
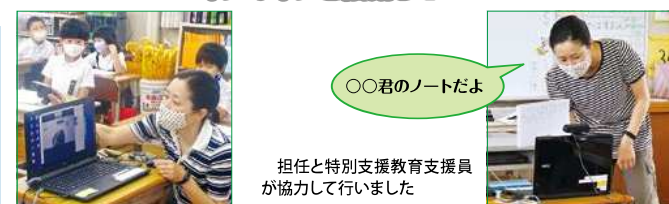
**「つながり」は
切らない**



各校では、子どもたちが地域へ出かけて行ったり、地域の人たちを招いて指導しても
らったりする活動が再開されました
感染防止のため延期していた保護者の授業参観も少しずつ復活し、今年度から本格
始動の「学校運営協議会」も3密に気をつけながら開催しています

保護者や地域の人たちと

オンラインを活用して



園・学校 ウォッチング

本校の教育目標は「ともに学び、心豊かにたくましく、主体的に行動する子どもの育成」です。学校が育てようとしている子どもの姿は、学校だけでなくホームページで広く発信し、学校・家庭・地域が、めざす姿を共有して子どもの成長を支援できるよう努めています。

教室の学びを体験してみよう

子どもの学びは、学校の授業だけでなく、心豊かにたくましく、主体的に行動する子どもの育成」です。学校が育てようとしている子どもの姿は、学校だけでなくホームページで広く発信し、学校・家庭・地域が、めざす姿を共有して子どもの成長を支援できるよう努めています。

ポストの中ってこんなふうになってるんだ



地域の指導者による授業

その後は追肥と除草作業です。長い梅雨のわずかな晴れ間を縫うように行いました。想像以上に手間がかかることを児童は体験し、きれいな花を咲かせるための作業の大変さを感じることができました。別の日には地域の指導者の方から、仲南地区がひまわり栽培に至るまでの経緯や苦労を聞き、中山間地域の農業の苦労と工夫を学びました。

地域とともに 子どもの学びをつくる

仲南小学校



「ひまわり」から学ぶ4年生
まんのう町は「ひまわりの里」として知られています。夏になると満開になったひまわりの中を通ってくると児童にとっても、自慢のひとつです。毎年7月には、帆山地区で「ひまわり祭り」が開催され、多くの方が来場して賑わっています。その後、ひまわりは刈り取られ、種からオイルを絞って「ひまわりオイル」として販売されるとともに、私たちの給食にも使用されるようになっています。そこで、「ひまわり」を教材として地域の農業や観光振興などについて学ぶことはできないかと考え、本年度から4年生が「ひまわり栽培」を通じた学習活動に取り組みしています。ひまわりは子どもたちの自慢でもあることから、故郷を愛する心の高揚にもつながると考えています。



親子で種まき「咲くのが楽しみ!」

また、今回の栽培にはまんのう町地域振興課の指導も受けており、まんのう町の観光資源としてのようなくみを整えているかを学ぶ機会ともなっています。児童が栽培したひまわりは、8月後半に刈り取り、オイルを絞りました。今後は、児童が学んだことを整理し、それを子どもらしいアイデアで発信することで、地域の活性化に貢献できればと考えています。



観光列車に満開のひまわりをPR

学校運営協議会が大きな力に

「ひまわり」を教材に取り入れるとき課題となったのは、指導者と畑の確保でした。この課題を解決して後押しして下さったのが、本校の学校運営協議会です。「ひまわりを教材に取り入れた」と相談したところ、指導者を紹介して下さいました。指導者の方も「学校が取り組むのなら協力しましょう」と言ってくれ、今回の実践につながりました。学校運営協議会は、学校からの相談を親身に受け止め、コーディネートしてくださっています。学校の心強い味方です。仲南小学校は学校運営協議会を核として「地域とともにある学校づくり」に取り組む、家庭・地域と一体となつて子どもたちの学びを充実させていきたいと思っています。

高橋 高橋ごども園では、日々の様々な経験を通して「心身ともにたくましく、仲間とともに心豊かに自立する子ども」を育てていきたいと考えています。

新しい年の始まり



春、少し緊張した様子の新入児。園庭に出ると、タンポポやシロツメクサが目に残りました。近くにいた3歳児から摘んだタンポポを一つ一つと手渡される、嬉しそうに

につこり。年長児の温かな気持ちに触れた瞬間でした。

草花の様々な色や大きさ、形に気づき、

「あれこれ」

「これこれ」

と心を動かし、それを友だちに伝えて共感してもらえ、さらに深く草花とかかわろうとします。タンポポの葉っぱをウサギの耳に見立てて、友だちと一緒に飛び石をぴよんぴよん

びよん。自分の気持ち、それを表現し、それを楽しんでいました。

「かわいー」

と声をかけられて嬉しそう。友だちに認められたことが自信にもつながったようです。



うさぎになつて

自然と遊ぼう みんなと一緒に遊ぼう

高篠こども園



手がかちかちになったよ



カタツムリ



季節とともに

雨が降ると、水たまりに足を踏み入れたり、傘に落ちる雨の音を聞いたり、傘の中では声が響くことに気づいたり、雨をながめてみようとして、五感を動かさながらいろいろなことを試して、雨を楽しんでいます。そして、水たまりに浮かぶカメムシを発見。「カメムシ、泳げるんやな」と新たな気づきもありました。

雨上がりの園庭では、泥んこ遊びが始まります。

泥団子を作る子、泥の中にどつぷりと浸かる子。寝転がったり、友だち同士で泥をつけ合ったりして、笑顔いっぱい。泥や水、砂はいろいろな形が変わり、様々な感触を味わえることが子どもたちを惹きつけているようです。

また、園庭には小川があり、水が流れます。

「向こう岸に渡りたいな」「橋があればいいな」と考えた子どもたち。

「石を持ってこよう」「大きい石、小さい石」「木は？」

「長いのがいい」「園庭をあらうちを探しまわります。これはどっち？」

と、見つけたのは、ビールケース。協力して一つずつ運んできて、小川の中に並べ始めました。



気持ちいい〜!



みんなで力を合わせて

すると、渡りたそうにしている3歳児の姿が・・・。

「もも組が渡れんな」と、ビールケースを斜めにしてみたり置く間隔を変えてみたり、3歳児を思いやり工夫する姿もありました。

みんなで考えを出し合い助け合いながら、試行錯誤の末やっと完成した橋をどの子ども渡ることができた時の、とても満足げな顔。工夫し楽しみながら、友だちとともに心と力を合わせてやり遂げた充実感を味わっているように見えました。

季節や天候により自然の様々な変化を体験することを通して、自分から遊びに向かうことを大切にしています。そして、向かっているかではなく、「このような学びがあるか」を意識し、遊びの中で気づいたことやできるよになったことなどを活かしながら、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりできるよになっています。子どもたちの成長しようとする力が発揮できるよ、この時期にふさわしい遊びの中で学びを支えます。そして、子どもたちとともに園生活や遊びを創っていくことを考えています。

本と生きよう！

みなさんは、本を読んだことがありますか？
本の中に入り込んだ経験がありますか？

本は砂時計のようなものです。砂時計は、砂が落ちていくことで時間を計りますが、誰かがひっくり返さないと動き始めません。
あなたがひっくり返せば、砂時計の時間が始まります。それと同じように、あなたが本を手にとって、ページをめくると、本の中の世界が動き始めます。あなたの前に、新しい世界が広がることでしょう。

まんのう町では、6月の第1土曜日を「まんのう町民読書の日」としています。
私は町民読書の日のテーマソング「本と生きよう」の作詞をさせていただきました。
楽しい時も、悲しい時も、どんなときにも本はあなたのそばにいてくれる、そして、あなたに新しいものを運んで来てくれると思います。

毎週土曜日午後8時30分から、オフトークのふれあい放送で、「本と生きよう」の歌が流れています。
(告知放送ではなくて、ふれあい放送です)
ぜひ、聞いてみてください。
どうぞ、あなたも本を手にとってみてください。
本と一緒に知らない世界をさがしに行きましょう。

本と生きよう！読書運動代表 小山 明子（仲南小学校 学校司書）



すべての小中学校図書館では「本と生きよう」の掲示を行い、本を借りるほど星が増えていく取り組みを行っています



町立図書館で行われた「本と生きよう展」

まんのう町民読書の日
テーマソング

本と生きよう

作詞：小山明子
作曲：小林洋平

1. ここは たのしくて わくわくして
何かが おこりそうな場所
ここは かなしみを ふきとばして
新しいことを はじめられる場所
ようこそ あなたの図書館へ
ここは あなたの居場所です

※本と生きよう 夜空に星がひかるように
あなたの心に そっと本を
本と生きよう 知らない世界をさがしにいこう

2. 本は たのしくて わくわくして
ことばが あふれている
本は かなしみを ふきとばして
新しい言葉 胸に刻んでいく
ようこそ あなたの図書館へ
心ふかくなる 居場所です

※くりかえし

3. 本は たのしくて わくわくして
心に あかりをともしている
ここは 迷っても 大丈夫
新しいことを みつけられる場所
ようこそ あなたの図書館へ
未来に つながる居場所です

※くりかえし
※くりかえし



今年も強かった！

長い

仲多度郡善通寺市中学校交流大会

～臨時休業を乗り越えて・満濃中学校～

【団体】

部 活 名		結 果
剣 道	男子	優勝
	女子	優勝
バレーボール	男子	優勝
	女子	優勝
卓 球	男子	優勝
	女子	優勝
ソフトテニス	女子	優勝
サッカー		準優勝
バスケットボール	男子	準優勝

【個人】

部 活 名		結 果	
剣 道	男子	優勝	新名 亮夫
		準優勝	川岡 獅道
	女子	優勝	泰田 愛海
		準優勝	香川 碧美
卓 球 [シングルス]	男子	準優勝	小笠原秋斗
		3 位	蓑田 翔一
	女子	3 位	田村 美月
		優勝	折目 愛奈
バドミントン [シングルス]	女子	優勝	折目 愛奈

な ぎ なた [県なぎなた交流大会]	女 子	基本の部 準優勝	中 暖 壁
		創作演技の部 3 位	

※ 団体は優勝・準優勝のみ
個人は3位まで掲載しています



満中生のボランティア活動



土のう袋に応援メッセージを書いて
7月の豪雨で河川が氾濫し大きな被害を受けた熊本県人吉市と芦北町へ送りました



見渡す限り金色の花

自分たちで育てたひまわり畑を歩く
仲南小の4年生
(6ページに関連記事)

編集後記

再び新型コロナウイルスの感染が拡大し、相変わらずの不安な日々が続いています。そんな中、新しい生活様式とともに、少し前とは大きく異なる価値観や流行が生まれ、それが定着しつつあるのは興味深いことです。

たとえば「マスク」。「コロナ禍以前は、マスクをつけたままと対応することとは失礼だとされました。表情が隠れ声も聞こえにくくなることで、相手を不安にさせ意思の疎通が難しくなるからです。」

ところが、今はどうでしょう。マスクをつけていないことをめづって、トラブルさえ起きています。そして、夏にうれしい冷感マスク、ランニング時につけても息苦しくないスポーツマスク、長時間つけても耳が痛くならないマスクなど、様々なニーズに合わせてマスクも多様化してきました。先日、史上最年少で「棋聖」に続き「王位」も獲得した藤井聡太二冠が棋聖戦の折につけていた絹マスクは、その後わずか数日で数万枚が売れたと言います。これは、福井県の浴衣帯を製造する会社が、「コロナ禍で帯が売れない状況を何とか打開しようと、帯製造に使うシルクを活用して作ったものだそうです。この会社のように、厳しい状況の中で何とか前向きに、マイナスをプラスに変えていくという取り組み人たちの話が二コーラスなどで度々紹介され、鬱屈した日々の中での明るい話題となりました。

ところで、百年以上も前の時代を生きた童話作家で詩人の宮沢賢治にも、これと相通ずるようなエピソードがあります。花巻農学校の先生だったころ、生徒たちと田植えをしたとき、田んぼの真ん中にひまわりの種を一粒植えたことがあったそうです。真夏になると、見渡す限り、ただただ平凡な緑の中に、そのひまわりが見事な花を開き、田んぼが輝いて見えたとき、当時の教え子たちは振り返っています。冷害のたびに凶作に苦しんでいた東北地方。けれども、苦しい農作業の中に楽しさを見つけ、工夫することに喜びを見出し、未来に希望をもつ・・・それが先生としての賢治の理想だったと、賢治の研究で知られる畑山博氏は書いています。

これからの時代は不透明で何が起きるか予測がつかないと言われます。だからこそ、その時々状況を柔軟に受け入れ、そこに小さな楽しみを見出そうとする前向きでたくましい生き方を、子どもたちとともに考えていきたいものです。

特集

次号12月1日発行予告

『要請訪問』にズームイン!!

※小中学校では

毎年恒例の行事ですが、

どんな目的で何をするのでしょうか?



園・学校ウォッチング

- ・満濃中学校
- ・琴南こども園